

浜松市 まつのき保育園 園長 竹内映晴先生

今回、取材に訪問させて頂いた「まつのき保育園」さんは、百十名定員の保育園です。浜松市中央区の南西部に位置し、同敷地内に十二名定員の小規模保育事業所みかんの家と、一日十名定員の児童発達支援事業ころる伊場との複合施設となっていました。

車通りの多い道から一本中に入り、閑静な住宅街と、東隣の高台にある県立浜松西高等学校の下の大きな林のある立地でした。

三施設の保護者や職員の方が共同で利用する駐車場は八十台程のスペースが確保されていて、運動会や発表会等の園内行事は全て保育園で、合同で行っているそうです。

保育目標は「生きる力を育む保育」「違いを認め、どの子も共に」「親仲間づくり」の三つを掲げており、こどもたちの発信を十分に受け止めることとで、こども自身に安心して、自分の気持ちを表現することとを大切にしていくそうです。



乳児クラスは、こども同士のトラブルは、お互いに思いが

あることを理解し、その思いを保育者が代弁して、こども自身が自分の気持ちに気づく機会を保障しているそうです。

幼児クラスは異年齢の日と学年の日とを組み合わせながら、生活や遊び、行事を通して、こども同士が思いを交流する機会を作り、色々な仲間と一緒に生活すること、遊ぶこと、行事に向かうことが楽しいと感じられるようにしているとのことでした。



また、同施設内にある児童発達支援事業所へ併行通園している児童も十名程いて、毎日複数名が利用しているため、月に一回は保育園の学年担任と児童発達支援事業所の担当者が、こどもの状況を確認する会議を行い、丁寧に関われる環境を整えているそうです。

これらの関わりが十分に叶うように、一、二歳クラスは正規保育士三名に非常勤保育士一、二名。幼児クラスは正規保育士が三学年に二名ずつ配置されていました。

玄関を入ると廊下に枝付きの柱が二ヶ所あり、こどもたちは自由に登って遊んでも良いことになっていました。

○歳児室は給食室の隣でつながっており、部屋の中から給食の受け渡しや相談ができる環境となっていました。

食育活動にも力を入れていて、園庭の一部を畑にして、玉ねぎやカブ等の野菜を育てていました。

取材日は二歳児クラスが、園の畑で採れたサツマイモを一人ずつ包丁で切り、茹でて漬けて茶巾絞りをしている最中でした。

また、年長のこどもたちは毎日お米を研いで炊飯をし、クッキング活動が日常的に行われていることを感じました。

保護者会活動も活発に行われていて、取材をした十二月は、遊戯室で保護者や保護者の親族が日本舞踊とピアノコンサートを行う会と、餅つき会が行われるとのことでした。その他にも、祝日に園を利用してバーベキューやクリスマスリース作りを行い、保護者もこどもも交流する機会を作っているそうです。

最後にお忙しい中、快く取材に協力していただいた、まつのき保育園の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

